

学位論文要約

児童の興味の質的向上を図る  
小学校美術教育における鑑賞学習の開発  
－ J・デューイの遊戯論を基に －

広島大学大学院人間社会科学研究科  
教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム  
カリキュラム開発領域

D214178 姜 家晨

## 論文目次

### 序章 研究の背景と目的

第1節 研究の背景と問題の所在

第2節 研究の目的と方法

### 第I章 興味を高める小学校美術教育に関する先行研究

第1節 小学校美術教育における児童の興味を高める学習開発の先行研究

第1項 興味の定義

第2項 実態調査の研究

第3項 教材開発に関する研究

第4項 学習指導法の開発の研究

第5項 遊戯に着目した学習開発

第2節 中国における児童の美術教育に対する興味に関する文献レビュー

第3節 児童の興味を高める鑑賞学習の開発に関する先行研究の検討

第4節 研究質問と本研究の独自性

### 第II章 理論的枠組み

第1節 デューイの興味論

第1項 「興味」の定義

1. 興味の定義

2. 興味の類型

3. 直接的興味と間接的興味

第2項 デューイの理論における興味の発展

第2節 デューイの遊戯論

第1項 デューイの遊戯論

1. 遊戯の意義

2. 遊戯の目的

3. 遊戯の社会性

第2項 デューイの遊戯論における興味の質的变化—遊戯から仕事へ—

### 第3節 遊戯論を取り入れた鑑賞学習の開発の理論的基盤

#### 第1項 フェルドマンの4段階鑑賞メソッド

#### 第2項 デューイの教材論

1. 教材と教授法との統一
2. 教材の発展
3. 教材の社会性
4. 教材に興味を起こ“させる“
5. 教材を通して抽象から具体へ
6. アートカード教材の構造化に向けて

#### 第3項 遊戯論を取り入れた学習の構造

1. 遊戯を用いた興味の教育のプロセス
2. 遊戯論を取り入れた鑑賞の学習開発の提案

### 第4節 遊戯論を取り入れた学習構造に基づく鑑賞活動の学習開発

#### 第1項 学習開発の目標

1. 興味の側面
2. 文化への多元的視点に対する興味を育む学習開発の目標

#### 第2項 学習開発の内容

1. 研究仮説に基づく学習指導の題材観・児童観・指導観
2. 「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルに基づく単元計画

## 第三章 アクション・リサーチのための実態調査

### 第1節 実態調査の目的と内容

### 第2節 実態調査の結果と分析

#### 第1項 美術の学習への興味

#### 第2項 美術の学習目的の認識

#### 第3項 美術鑑賞の経験

### 第3節 実態調査の考察

#### 第1項 鑑賞活動への興味の現状

#### 第2項 鑑賞活動における鑑賞方法を学ぶ意識

### 第3項 鑑賞活動に関する課題

## 第IV章 研究デザイン

### 第1節 研究方法

#### 第1項 研究目的と研究仮説

#### 第2項 アクション・リサーチの方法

### 第2節 フィールドと対象者

#### 第1項 研究協力校と研究協力者の情報

#### 第2項 対象児童の実態

### 第3節 データの収集

#### 第1項 アンケート調査

#### 第2項 ワークシートの収集

#### 第3項 半構造化インタビュー

### 第4節 データの分析

#### 第1項 量的データの分析

#### 第2項 質的データの分析

### 第5節 信頼性と妥当性

### 第6節 研究の倫理

## 第V章 アクション・リサーチの実施

### 第1節 パイロット・スタディ

#### 第1項 パイロット・スタディにおける学習開発の内容

#### 第2項 パイロット・スタディにおけるデータ分析

1. 事前・事後のアンケートの質問1の分析
2. 事前・事後のアンケートの質問2の分析
3. 興味が上昇した児童の分析
4. 興味が低下した児童の分析
5. 半構造化インタビューの分析

#### 第3項 パイロット・スタディの結果と考察

### 第2節 中国山西省の公立A小学校におけるアクション・リサーチ I

第1項 データの分析

第2項 公立A小学校児童の興味の上に関する考察

第3節 中国山西省の公立B小学校におけるアクション・リサーチII

第1項 データの分析

第2項 公立B小学校児童の興味の上に関する考察

第4節 中国山西省の公立C小学校におけるアクション・リサーチIII

第1項 データの分析

第2項 公立C小学校児童の興味の上に関する考察

第5節 3校を合わせた興味の変化に関する質的分析の結果と考察

第1項 データの分析

第2項 3校を合わせた興味の上に関する考察

第6節 考察

第1項 量的分析による興味の上に関する考察

第2項 興味 of 質的变化に関する考察

## 終章 本研究の成果と今後の課題

第1節 本研究の成果

第1項 中国小学校における図画工作科への興味に関する実態調査

第2項 「興味 of フェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルの提案

第3項 中国山西省の児童を対象としたアクション・リサーチを通じた効果  
検証

第2節 本研究の今後の課題

第1項 児童の間接的興味 of 維持についての課題

第2項 実態調査と実践 of 範囲についての課題

第3項 『義務教育芸術課程標準 (2022年版)』についての課題

## 引用文献一覧

## 主要参考文献

## 巻末資料

## あとがき

## 1 研究の背景と目的

『義務教育美術課程標準解説（2011年版）』によると、中国の小学校美術教育は美術活動を通して児童の内在的な学習興味を起こすことを目指している。児童の興味は、総合的な過程を通して育成されることが強調され、教師の役割として、児童の注意力を引きつけ、満足感と達成感を味わわせ、美術活動に対する興味を育成するために有効な学習を開発する必要性が示されている。しかし、「総合的な過程」に関しては具体的な記述がなく、興味を育成するための方法が不明確であることが課題である。

本研究では、興味の質的向上を目指して、遊戯に着目した鑑賞学習を開発し、高学年の中国人児童を対象としたアクション・リサーチを通して、その効果を検証することを目的とする。

## 2 興味を高める小学校美術教育に関する先行研究

先行研究の多くにおいて中国の児童の興味についての調査はすべての学年にわたって行われているわけではないが、学年が上がるにつれて、児童の興味には、次の傾向があることが示されている。すなわち、①総合的に見ると、学年が上がるにつれて児童の小学校美術教育への関心は低下している。②コース選択では手動きの少ないコースに偏っている。③小学校美術教育への興味の減少は5・6年生に顕著になっている。先行研究における現状分析と研究成果から、高学年の児童について小学校美術教育に対する興味の低下の主な要因は、次の3点にまとめられる。①高学年の児童は進学の影響があり、学習の中心は国語や数学など試験科目に偏り、小学校美術教育に対する興味が減少している。②小学校美術教育の学習意義が不明確である。③教師の指導法や教材などに課題があり、児童の興味を失わせている。本研究では、以上のような児童の興味の現状を踏まえ、指導法や教材の改善を通じて、高学年の児童の小学校美術教育に対する興味の質的向上を図る鑑賞学習モデルを提案することを目的とする。

## 3 理論的枠組み

### (1) デューイの理論における興味の発展

デューイが提唱した興味の理論に基づき、新しい興味の発展のプロセスは、子どもの過去の興味が問題解決のプロセスの中で分解されて、経験を通じて形成される問題解決の目的に組み合わされ、新しい興味へと発展する。問題となっている課題は、過去の経験を基

にした興味との結びつきを前提とし、子どもが自分の思考で展開する新しい経験と一体となって解決に向かう。この過程は図 1「興味の発展のプロセス」に示すとおりである。

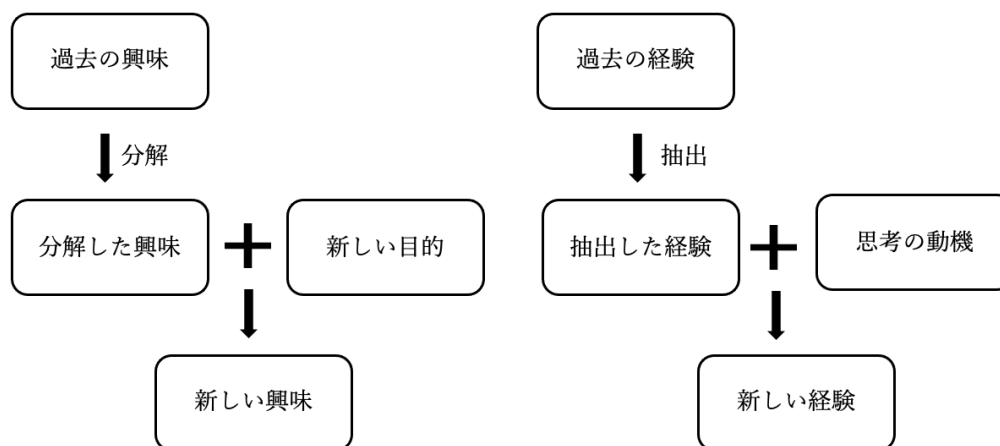


図 1 興味の発展のプロセス

## (2) アートカード教材の構造化に向けて

デューイの興味論によると、真の興味の育成は教材と子どもの発達との統一が必要である。その上、デューイの教材論と合わせれば、教材、子どもの発達と教授法が一体的であることが考えられる。教授法に従った学校教育においては、子どもは教材を通して活動を行い、自身の経験・能力・ニーズに応じて知識・技能・感情などの発達を達成する。したがって、興味の質的变化を求める教材の開発は、子どもの興味の発達と教授法を基に行う。デューイの遊戯論における興味の質的变化においては遊戯が仕事に転化し、子どもの直接的興味が間接的興味へと移行する。つまり、教材の開発は、子どもの直接的興味を間接的興味へ導くことを目的とする。

アートカードの開発をデューイの教材の発展の3つの段階から見ると、まずは、アートカードに描かれた芸術作品に親しみやすくなる。次は、芸術作品の知識や情報によって、鑑賞活動の意味を深められる。最後は、芸術作品の範囲を拡大し、組織された材料として、社会性に価値をおいた鑑賞活動を行うことができる。これらの段階を通して、児童は鑑賞の経験を積み、芸術作品の意味を認識し、興味は単なるアートカードを遊ぶ直接的興味から芸術作品や鑑賞活動への間接的興味に移行する。

### (3) 遊戯論を取り入れた学習の構造

遊戯は、子どもが目的を達成するために必要な材料や方法に徐々に慣れ、自分の行動について考え、最終的に目的を達成する（問題解決）という実行能力を自然に発展させるものである。遊戯のプロセスで、社会性が備わった環境を通じて、抽象的物事に社会的要素を加え、子どもの社会的興味の形成を促すことができる。

遊戯の教育的性質とフェルドマンの4段階批評メソッドを組み合わせることで、遊戯を通して社会性を持つ活動環境を作り出し、4段階を通して子どもの興味の質的向上がもっと効果的に促進できると考える。子どもの鑑賞活動への興味を高め、新しい興味へとつながる学習構造の明確化が必要であり、そのような学習構造を図2「遊戯を用いた興味の発展プロセス」のように表している。

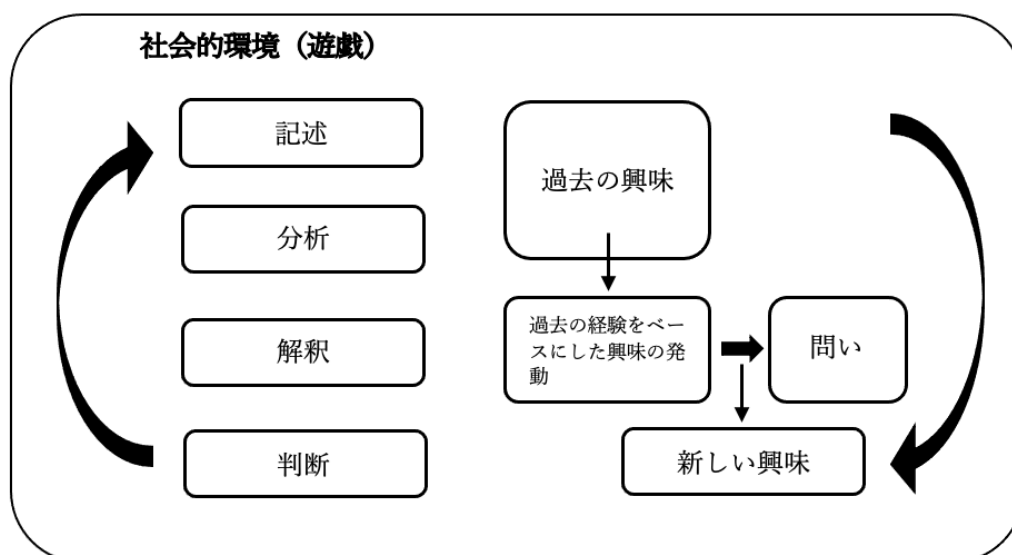


図2 遊戯を用いた興味の発展プロセス

### (4) 遊戯論を取り入れた学習構造に基づく鑑賞活動の学習開発

本研究では、デューイの遊戯論とフェルドマンの4段階批評メソッドを踏まえ、興味の発展のプロセスを組み入れた図3に示す「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを提案する。



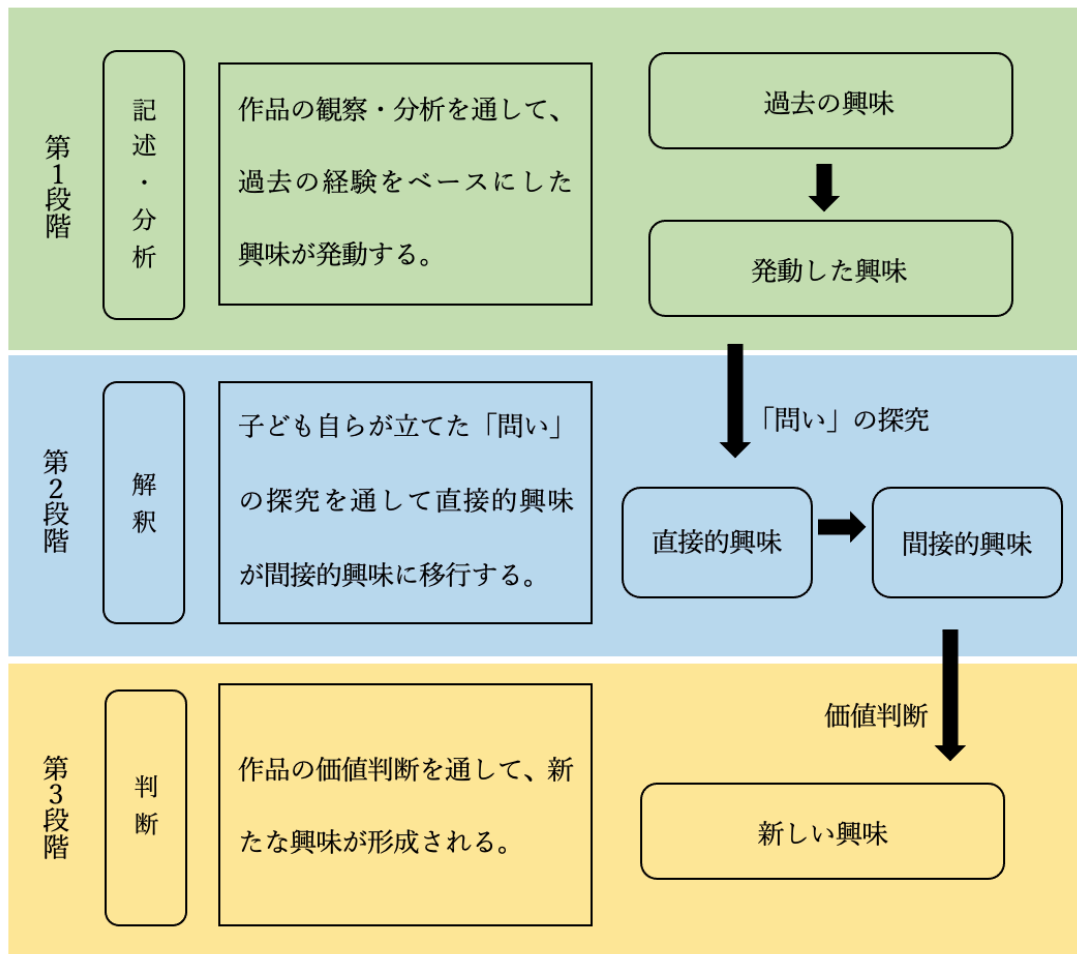


図3 「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデル

フェルドマンの4段階批評メソッドには「記述」、「分析」、「解釈」、「判断」4つの階段がある。「記述」と「分析」の段階では、子どもが鑑賞活動の展開の中で、過去の経験から発動した直接的興味を持ち、作品の内容を分析・記述する。「解釈」の段階では、鑑賞活動の中で獲得する感受が深まり、作品から感じた喜びや悲しみの感情や、活動の中で見出した価値が自身の問いの解決に役立てられ、直接的興味が間接的興味に移行される。

「判断」の段階では、価値の判断を通して新たな興味が形成され、授業中の学習だけではなく、それ以外の場でも生きる持続的で自主的な興味の形成によってさらなる鑑賞活動が促される。

#### 4 アクション・リサーチのための実態調査

中国における小学校高学年の児童の実態を明らかにするため、2022年5月から2022年6月の期間で中国山西省の小学校3校と河北省の小学校1校の高学年の中国人児童645

名を対象としてアンケート調査を実施した。

アンケートでは、中国人児童の美術学習に関する興味の実態を明らかにする質問項目を設定した。調査紙の質問は先行研究で整理された高学年の児童において図画工作科への興味が低下する主な3つの要因を踏まえ、①美術の学習への興味、②美術の学習目的の認識、③美術鑑賞の経験という3項目を設定した。①の美術の学習への興味の項目では、図画工作科の授業への興味、美術作品と日常生活の中で絵や作品などを鑑賞する興味、博物館や美術館で鑑賞活動を行う興味を調査した。②の美術の学習目的の認識の項目では、図画工作科を学ぶ目的と図画工作科で鑑賞活動を行う目的を調査した。③の美術鑑賞の経験の項目では、児童の今までの鑑賞活動での経験を調査した。

アンケート調査の結果により、対象とした中国児童の美術作品への興味は、中国の美術作品に偏る傾向があり、一部の有名な芸術家の作品に集中している現状が明らかとなった。図画工作科で鑑賞活動を行う目的には知識の学習と活動によって児童の感受を目指す傾向があり、鑑賞方法の獲得を目指す児童の数は少ない。鑑賞活動を通して鑑賞方法を身につけることにも意識を向けさせる必要があると考える。博物館や美術館の利用が推奨されているものの、学校と博物館や美術館との連携が少ないため、児童が外国の美術作品を鑑賞する機会も足らず、連携を強化することが必要であると考え。先行研究から、義務教育の実施に伴い、児童の図画工作科への興味が高まっていることが示される。しかし、児童の鑑賞活動に対する興味は低く、中国小学校の図画工作科を通じて鑑賞活動への興味を養う必要があると考える。

## 5 研究デザイン

### (1) 研究方法

本研究で提案する鑑賞モデルの効果を検証するため、中国山西省の3つの公立小学校でパイロット・スタディとアクション・リサーチを実施した。仮説の検証を目的として実施するパイロット・スタディとアクション・リサーチでは、事前・事後アンケートから得られたデータの量的分析と、授業を通じて得られたワークシートの記述内容と事後アンケートに含まれる自由記述の質的分析を行った。研究仮説は以下のように設定した。

研究仮説：

本研究が提案する「興味フェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを用いた構造化された鑑賞学習を通して、児童の美術鑑賞に対する興味の質的向上を図ることができる。

アクション・リサーチを通して、児童の興味の変化を明らかにするため、事前・事後アンケートを実施する。事前・事後アンケートで用いた質問項目の構成は、表1に示すとおりであり、興味の3側面である「多視点」、「意味や価値」、「主体性」の観点から構成されている。

授業で用いたワークシート1・2・3は、授業の内容を踏まえて、児童が各学習段階で気づいたことや感想などを記録し、興味の質的变化の有無を調査するために用いた。ワークシート1・2・3の質問内容は表2に示すとおりである。

表1 事前・事後アンケートの質問項目

興味の側面	質問番号	質問内容
多視点	1	美術作品がつけられたときの生活や歴史・文化などについてもっと学びたい。
	2	中国以外の世界の美術や文化についてもっと知りたい。
	3	いろいろな国の美術作品のよさや美しさに興味がある。
意味や価値	4	様々な美術作品を鑑賞するのが楽しい。
	5	自分の感じ方・考え方で美術作品を味わうことが好きだ。
	6	美術作品をつくれた作家の意図を考えるのが楽しい。
主体性	7	自分で学びたい美術作品や芸術家がいる。
	8	美術館や博物館などで美術作品を鑑賞したい。
	9	生活の中で美術作品を楽しみたい。

表2 ワークシート1・2・3の質問内容

ワークシート	実施時間	内容
ワークシート1	第1時	アートカードを6つの地域で分類してください。
		興味があるグループを一つ選んで分類の理由を書いてください。
		今日の授業を通して、あなたが新しく興味を持つようになったことを書いてください。
ワークシート2	第2時	どの美術作品を選びましたか？美術作品のタイトルを書いてください。
		選んだ美術作品を鑑賞してください。
		今日の授業を通して、あなたが新しく興味を持つよ

		うになったことを書いてください。
ワークシート 3	第3・4時	各グループが作ったアートカードを6つの地域で分類してください。
		興味がある地域を一つ選んで分類の理由を書いてください。
		今日の授業であなたが新しく気づいたことを自由に書いてください。
		今日の授業を通して、あなたが新しく興味を持つようになったことを書いてください。

## (2) データの分析方法

アクション・リサーチを通じて得られたデータは、量的データと質的データの2種類がある。量的データは、事前・事後アンケートの質問1で得られたデータである。質的データは、半構造化インタビューで得られた児童の発言、事前・事後アンケートの質問2から得られた自由記述のデータ、ならびにワークシート1・2・3の記述内容である。

### 1. 量的データの分析方法

量的データは、統計ソフト IBM SPSS Statistics を使って分析し、各選択肢の回答の平均値を算出することによって、対象とした児童の興味の変化を数値的に観察した。対象とした学校ごとに、事前と事後の平均値を比較し、児童の興味の質的向上の有無を判断し、その要因を考察した。

### 2. 質的データの分析方法

アクション・リサーチを通して児童の興味の質的向上の具体的様相を可視化するため、得られた質的データを KH Coder を用いて分析し、その結果を抽出語の共起ネットワークで表した。

共起ネットワークの設定では、Jaccard 係数によって処理を行った。この設定では、バブルの大きさは、抽出語の頻度を表し、バブルが大きいほど頻度が高いことを示している。バブルを繋ぐ線は、抽出語間の共起関係を表している。線が濃いほど共起関係が強いことを示し、点線は共起の程度が低いことを、実線は共起の程度が高いことを示している。抽出語の最小出現数を5に設定し、分析の結果を図で表示するように指示した。共起ネット

ワークの上に重ねて、コンコーダンス (KWIC) 機能を用いて児童の記入内容を参照し、興味の3側面で抽出されたキーワードを分類し、カテゴリーを生成した。

## 6 アクション・リサーチの結果と考察

### (1) パイロット・スタディの結果と考察

パイロット・スタディの協力校は、山西省の公立 A 小学校であり、対象児童は、21 名である。事前平均値と事後平均値を比較すると質問 8 を除き、すべての質問の平均値が上昇した。質問 1～4 と質問 9 の増加は 0.3 未満、質問 5～7 の増加は 0.3 以上であった。質問 5 と質問 7 に有意差 (有意水準 5%) がみられ、事前と事後の変化があると判明した。また、質問 5 と質問 7 の事前と事後の平均値を比較した結果、事後の方が高く、児童の変化が見られた。

表 3 公立 A 小学校の事前・事後平均値と事前・事後標準偏差(パイロット・スタディ)

	事前		事後		t (20)	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
質問 1	3.48	0.81	3.67	0.58	-1.45	0.16
質問 2	3.33	0.80	3.48	0.60	-0.72	0.48
質問 3	3.33	0.86	3.57	0.75	-1.23	0.23
質問 4	3.48	0.60	3.67	0.58	-1.71	0.10
質問 5	3.29	0.72	3.62	0.50	-2.09	0.05
質問 6	3.00	1.00	3.38	0.67	-1.56	0.13
質問 7	3.33	0.66	3.67	0.58	-2.09	0.05
質問 8	3.33	0.73	3.10	1.09	0.74	0.47
質問 9	3.33	0.73	3.62	0.59	-1.37	0.19

興味が低下した原因を明確するため、質問 8 の数値が減少した 6 名児童に半構造化インタビューを行った。6 名のうち 5 名が「美術館や博物館に行かなくても、アートカードで作品を楽しめるので、美術館や博物館に行きたい気持ちが弱くなった。」といった回答をした。残りの児童 1 名は「インターネットでオンライン美術館や博物館があり、より手軽に美術品を楽しむことができる。」と回答した。これら 6 名の回答は、美術館や博物館の需要が減ったからという要因に分類できる。他方、授業の中で興味を喚起したものについて分析した結果、「アートカードによる興味の高まり」と「インターネットによる興味

の高まり」の2つのカテゴリーが生成された。すなわち、教材のタイプによって児童の興味が高まることが示された。

## (2) アクション・リサーチ I・II・IIIの結果と考察

アクション・リサーチ I の協力校は、山西省の公立 A 小学校であり、対象児童は、128 名である。アクション・リサーチ II の協力校は、山西省の公立 B 小学校であり、対象児童は、143 名である。アクション・リサーチ III の協力校は、山西省の公立 C 小学校であり、対象児童は、141 名である。表 4～表 6 に示すとおり、事前の平均値と事後の平均値を比較すると対象とした山西省の公立小学校 3 校とも、すべての質問に関して平均値が上昇した。また、すべての質問の分析結果に有意差（有意水準 5%）がみられた。この分析結果から、実施した「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを用いた構造化された鑑賞学習は、児童の美術鑑賞に対する興味を高めるのに有効に働いたことが示される。

表 4 公立 A 小学校の事前・事後平均値と事前・事後標準偏差

	事前		事後		t (120)	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
質問 1	3.32	0.82	3.66	0.54	-5.71	<.001
質問 2	3.17	0.85	3.49	0.58	-4.73	<.001
質問 3	3.27	0.89	3.56	0.63	-4.03	<.001
質問 4	3.45	0.81	3.67	0.57	-4.55	<.001
質問 5	3.21	0.91	3.63	0.52	-5.98	<.001
質問 6	2.88	1.03	3.36	0.63	-6.42	<.001
質問 7	2.92	1.01	3.45	0.73	-7.52	<.001
質問 8	3.21	0.97	3.45	0.74	-3.40	<.001
質問 9	3.13	0.94	3.55	0.68	-5.70	<.001

表5 公立B小学校の事前・事後平均値と事前・事後標準偏差

	事前		事後		t (138)	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
質問1	3.01	0.96	3.61	0.57	-8.29	<.001
質問2	2.88	0.94	3.50	0.66	-8.92	<.001
質問3	2.85	0.99	3.53	0.67	-9.74	<.001
質問4	2.64	1.08	3.40	0.73	-9.15	<.001
質問5	2.68	0.96	3.38	0.64	-9.51	<.001
質問6	2.45	1.01	3.18	0.79	-9.89	<.001
質問7	2.70	1.05	3.44	0.72	-9.76	<.001
質問8	2.71	0.96	3.43	0.72	-10.75	<.001
質問9	2.75	1.05	3.40	0.76	-8.98	<.001

表6 公立C小学校の事前・事後平均値と事前・事後標準偏差

	事前		事後		t (139)	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
質問1	3.16	0.93	3.62	0.64	-7.48	<.001
質問2	3.18	0.92	3.60	0.62	-6.49	<.001
質問3	3.09	0.93	3.54	0.63	-6.93	<.001
質問4	2.99	1.00	3.50	0.74	-7.21	<.001
質問5	3.08	0.99	3.59	0.67	-7.61	<.001
質問6	2.78	1.00	3.34	0.82	-7.75	<.001
質問7	3.04	0.94	3.49	0.73	-7.28	<.001
質問8	3.09	0.96	3.62	0.62	-7.93	<.001
質問9	2.96	1.03	3.45	0.77	-7.55	<.001

KH Coder を用いた質的分析の結果は、図4～図11に示すとおりであり、興味の側面である「多視点」、「意味と価値」、「自主性」の点から、カテゴリーを生成している。得られたカテゴリーは、それぞれの図に示したとおりである。「多視点」に関しては、主に「トピック」、「アフリカ・大洋州・北アメリカ・ヨーロッパ・南アメリカ・アジアへの興味」などがある。「意味と価値」に関しては、「認識と理解」、「児童の感受」などがある。「自主性」に関しては、「鑑賞の対象」、「興味の自覚」などがある。

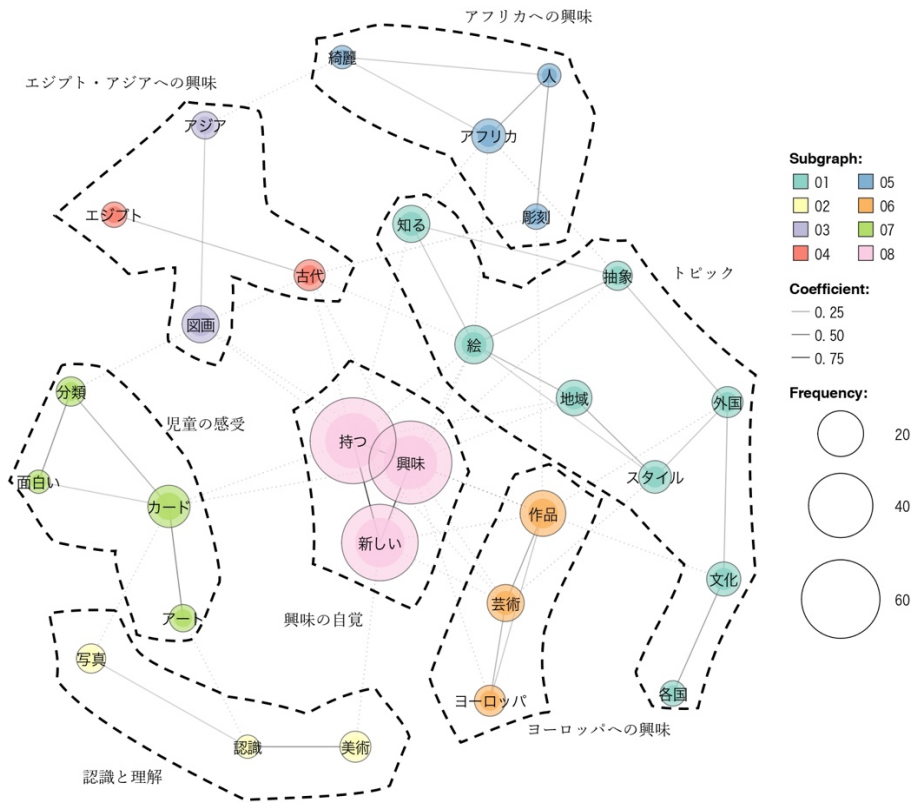


図4 公立A小学校児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事前）

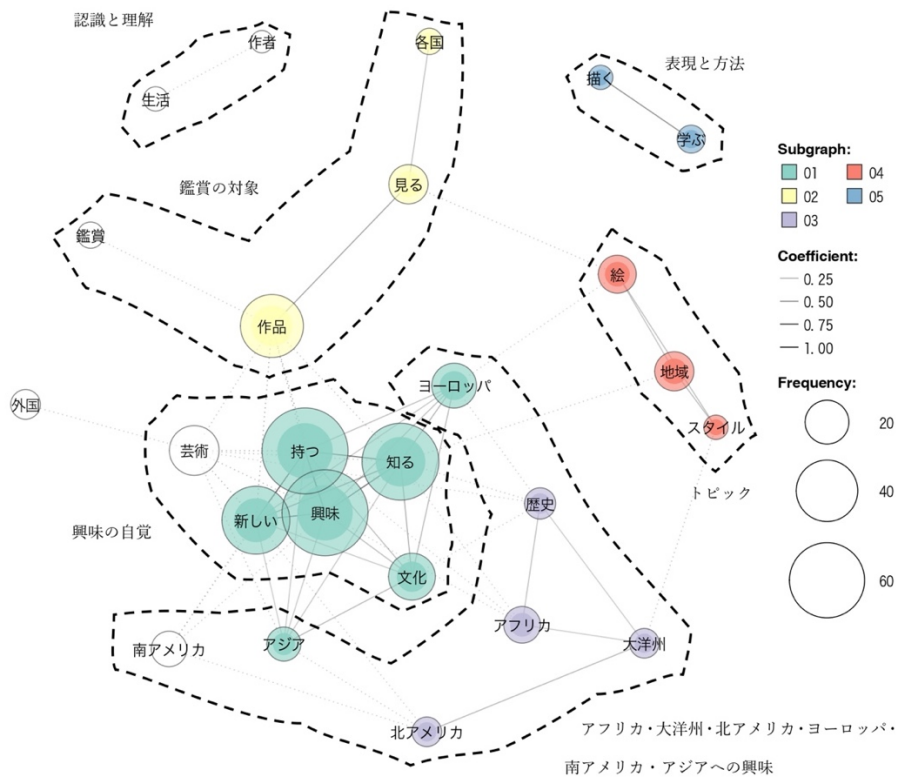


図5 公立A小学校児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事後）



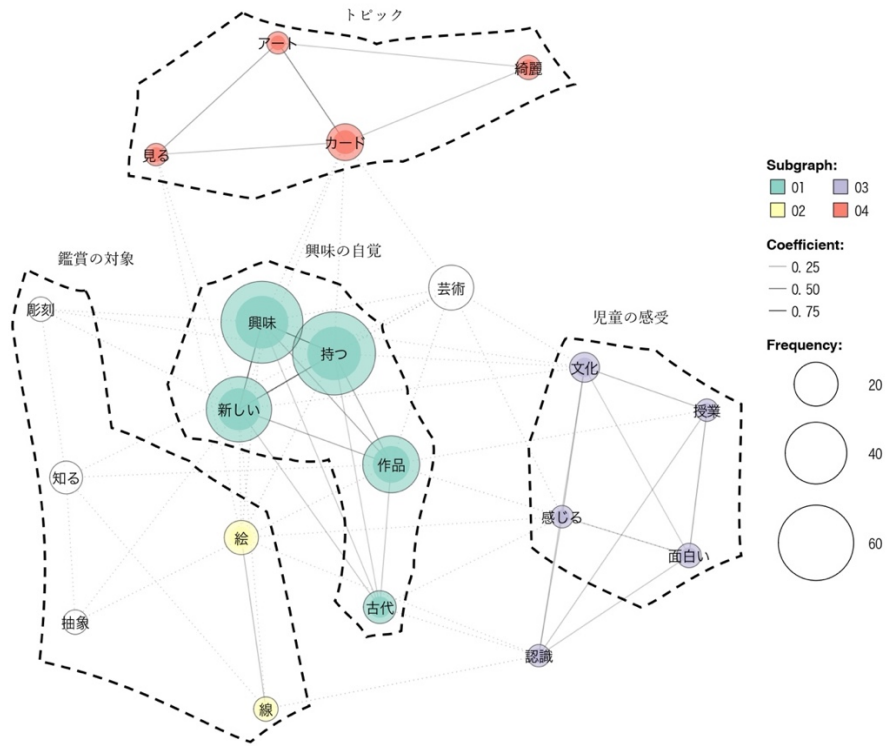


図6 公立 B 小学校児童の興味に関する記述内容の質的分析（事前）

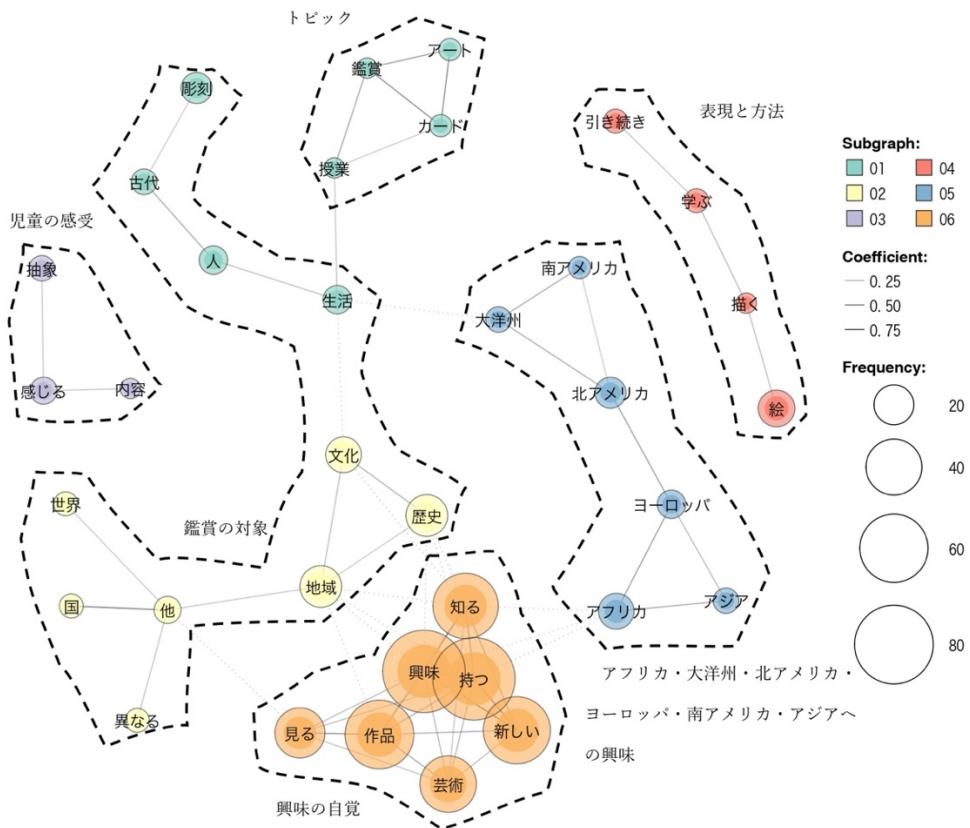


図7 公立 B 小学校児童の興味に関する記述内容の質的分析（事後）

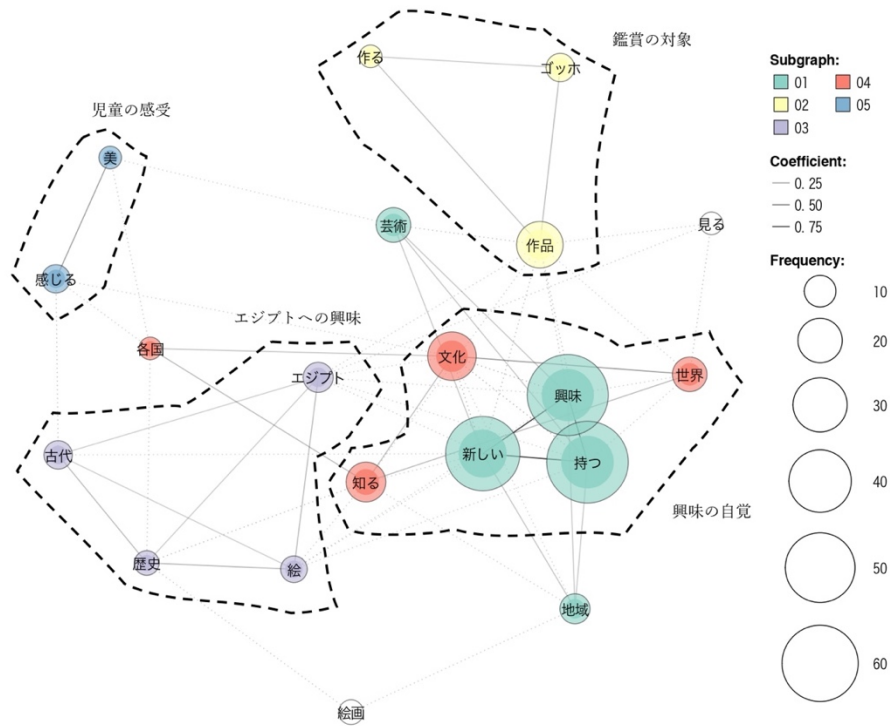


図8 公立C小学校児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事前）

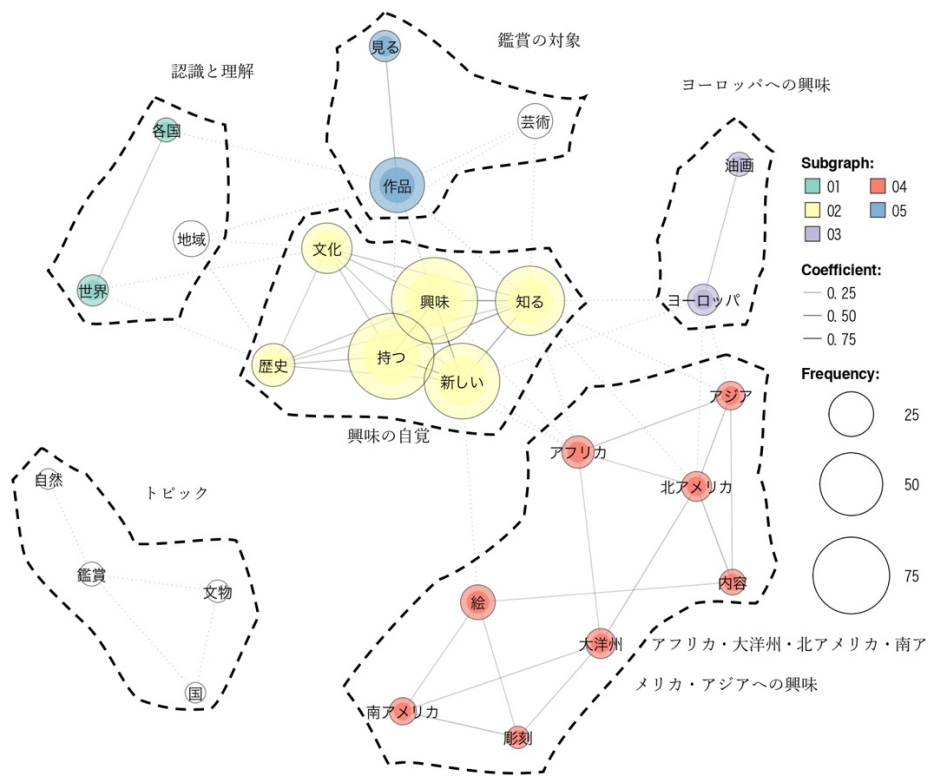


図9 公立C小学校児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事後）

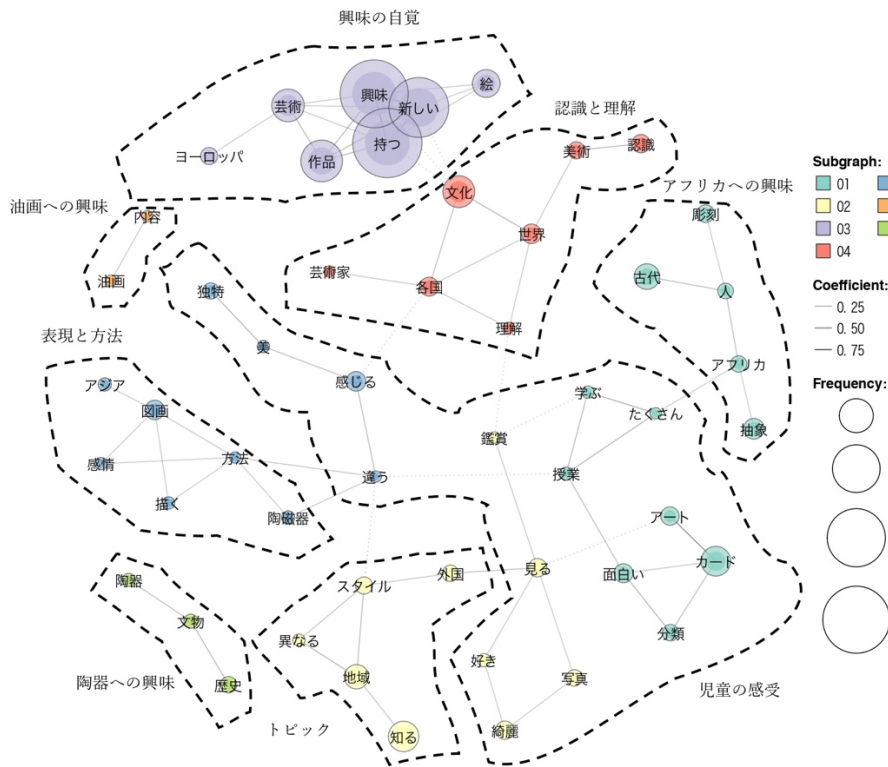


図 10 3校を合わせた児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事前）

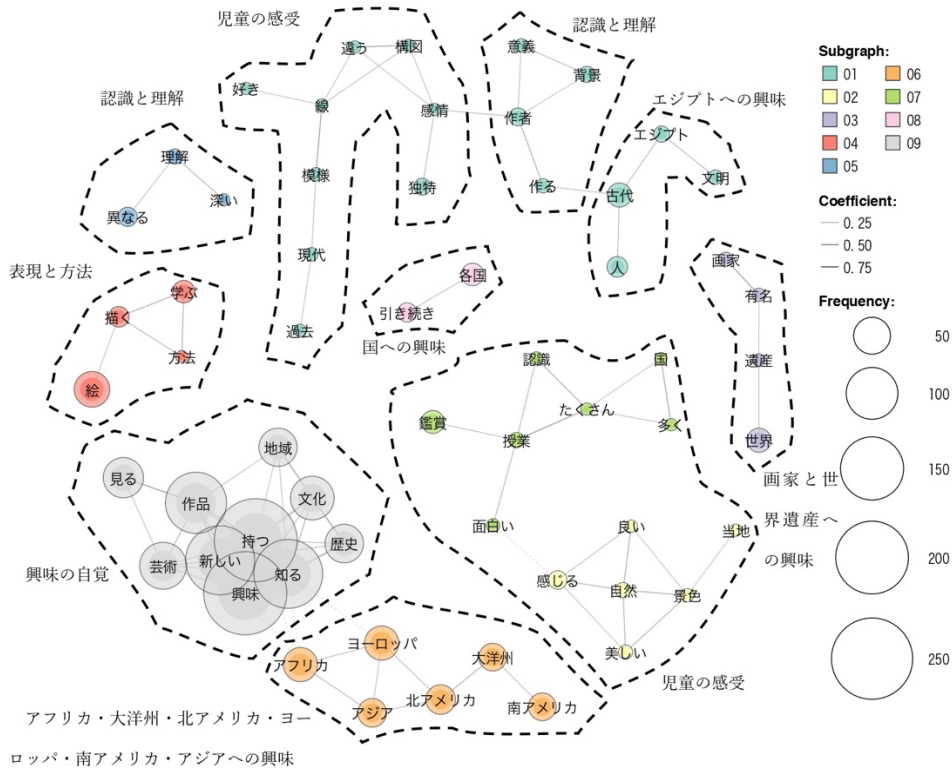


図 11 3校を合わせた児童の興味に関わる記述内容の質的分析（事後）

図 10 と図 11 に示すとおり、3 校を合わせたデータの質的分析により、全ての学校とも興味の「多視点」の側面に質的变化が見られる。特に、地域に関する興味の広がりが増加を特徴づけている。図 11 の事後の分析結果に示すとおり、「世界」、「各国」、「地域」というキーワードの頻度も増し、地域に新しく興味を持つ児童が増えると同時に、興味のある地域が拡大したことが明らかになった。加えて、事後における「興味」と「地域」の共起関係も強く現れた。各校の分析結果を示した図 4～図 9 を参照すると、公立 B 小学校と公立 C 小学校では、事前にはない地域への興味の категория が事後に現れ、地域と国に新しく興味を持ったことが分かる。公立 A 小学校の児童の興味は地域の歴史に集中しており、これをもっと知りたいという意欲が高まったことが明らかになった。図 7 に表されるように、公立 B 小学校の児童は、各地域の作品、文化、芸術など様々な方面に興味を持ったことが示された。図 9 に示されるように、公立 C 小学校の児童では、異なる国や地域の作品をもっと鑑賞したいという興味が多く見られた。児童の記述内容を参照すると、「外国の文化に新しく興味を持ちます。外国の文化はどのように進化するのかを知りたいです。」や「各地域の芸術文化に新しく興味を持って、もっと知りたいです。」などが見られた。作品を鑑賞しながら作品が表す文化や歴史の内容を知り、他の作品や他の文化、歴史を知りたいという興味に変化したことが推測できる。

図 11 に示すとおり、興味の「意味と価値」の側面について、事後は「構図」、「作者」、「理解」などのキーワードが新しく加わった。また、学習開発で用いたフェルドマン 4 段階批評メソッドを特徴づける記述、分析、解釈、判断に関わるキーワードも見出すことができる。「構図」、「線」、「模様」というキーワードは作品の記述と分析であり、「意義」、「背景」、「作者」というキーワードは作品に対する解釈であり、「理解」、「独特」、「異なる」というキーワードは作品に対する判断である。図 10 に示された事前と比較すると、児童が作品を自分のやり方で鑑賞する興味が見られ、主体的に鑑賞を深めていくための興味が形成されたことが推察される。変化が 3 校を合わせたデータの質的分析により、児童の鑑賞方法は作品の記述が中心のものから作品の判断が中心のものへ発達したことが示される。

興味の「自主性」の側面について、「興味の自覚」と「鑑賞の対象」の category において、3 校とも「興味」、「新しい」、「持つ」キーワードの頻度の増加が見られ、鑑賞すること自体への興味の向上を示している。

## 7 本研究の成果と今後の課題

### (1) 本研究の成果

本研究の1点目の成果は、現代の中国児童の図画工作科への興味の実態を明らかにしたことである。645名を対象とした調査を通して、限られた範囲ではあるが中国児童の実態が分かり、鑑賞活動への興味の低下の要因を明らかにした。

2点目の成果は、児童の興味の質的向上を図るため、フェルドマンの4段階批評メソッドをベースに、興味の発展のプロセスを組み入れた「興味のフェルドマン・メソッド」という鑑賞モデルを開発したことである。中国の鑑賞活動における学習開発のまだ不十分である現状に対して、「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを、一つの改善策として提案したことである。

3点目の成果は、中国山西省の児童433名を対象として、本研究で提案した鑑賞モデル「興味のフェルドマン・メソッド」の有効性に関する検証をアクション・リサーチを通じて行い、具体的な効果と課題を明らかにしたことである。アクション・リサーチを通して得られた、興味の質的向上の変化を示す詳細を、図12「『興味のフェルドマン・メソッド』による鑑賞モデルに基づく学習を通じた興味の質的向上」に示す。

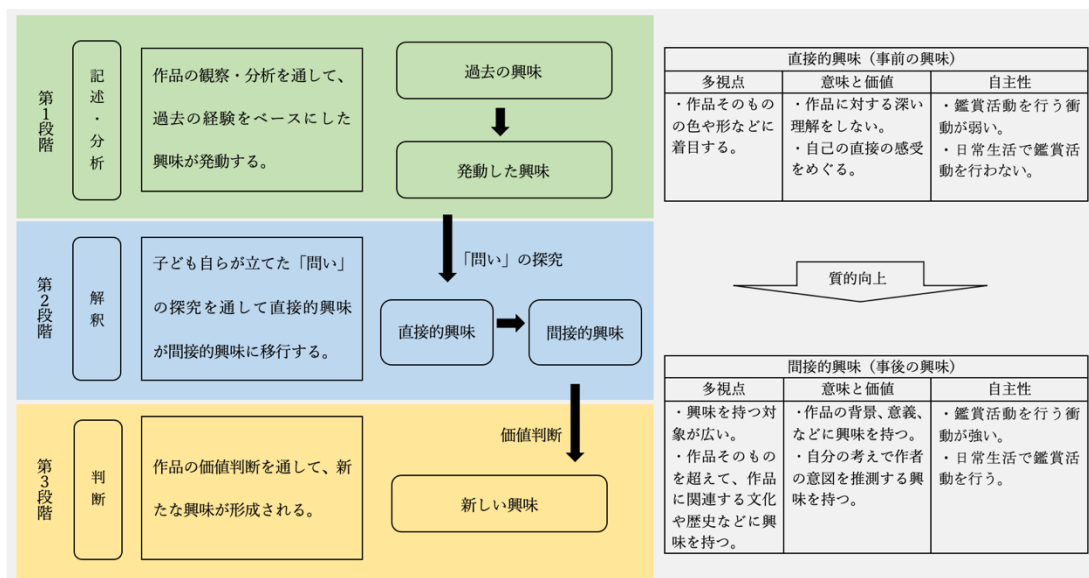


図12 「興味のフェルドマン・メソッド」による

鑑賞モデルに基づく学習を通じた興味の質的向上

## (2) 本研究の今後の課題

今後の課題の一つとして、児童が美術鑑賞への間接的興味をいつまで維持できるかに関する検証が挙げられる。これについて明らかにするため、アクション・リサーチの対象となった児童に対して、授業直後の調査に加えて、1ヶ月後と2ヶ月後も事後アンケートを実施することなど、追加の調査を行う必要性が示される。また、「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを通して児童の興味が高まったかどうかを判断するため、今後において、比較実験法を用いた研究を計画したいと考える。

また、中国の山西省以外の省に対して、『興味のフェルドマン・メソッド』による鑑賞モデルの有効性はまだ不明である。本研究の妥当性と信頼性を高めるため、中国の他の省で「興味のフェルドマン・メソッド」による鑑賞モデルを用いた構造化された鑑賞授業を、今後、計画したいと考える。

最後に、2022年に『義務教育芸術課程標準（2022年版）』が公表され、新たな美術課程の指導方法が示されている。『義務教育芸術課程標準（2022年版）』は、『義務教育美術課程標準（2011年版）』を補足・発展させるものである。発達の観点から、これからの興味の育成は、過程と方法をより重視し、学習過程における興味の育成をより明確に理解し、学習開発において豊かな「芸術的感知と感情の体験」を活用し、児童の興味を促すことが必要である。この課題にさらに取り組むために、学習活動における「芸術的感知と感情の体験」に対する研究を進める必要がある。

## 主な参考文献・引用文献一覧

### <邦文>

1. 伊東知之、「筒型菓子箱を利用した工作教材の開発—万華鏡工作—」『仁愛大学研究紀要人間生活学部篇』、(10)、仁愛大学、2019、pp. 39—50
2. 井上周一郎、下之藺崇、「粘土による人体表現についての指導法：鹿児島市内の小学校における実践研究」『南九州地域科学研究所所報』、(37)、鹿児島女子短期大学附属南九州地域科学研究所、2021、pp. 35—54
3. ウヴェ・フリック著（小田博志、山本則子、春日常、宮地尚子訳）、『質的研究入門：「人間の科学」のための方法論』、春秋社、2011
4. 白井昭子、佐藤克美、「鑑賞学習のための教材『デジタルアートカード』」『コンピュータ&エデュケーション』、(49(0))、一般社団法人 CIEC、2020、pp. 66—67
5. エリオット・W・アイズナー（仲瀬律久他訳）、『美術教育と子どもの知的発達』、黎明書房、2003
6. 小倉千絵、「系統的ミニマム教材『アートカード』の実践」『美術教育学』、(39(0))、美術科教育学会、2018、pp. 79—88
7. 佐藤郁哉、『質的データ分析法：原理・方法・実践』、新曜社、2008
8. ジョン・デューイ（杉浦宏訳）、『教育における興味と努力』、明治図書出版株式会社、1972
9. ジョン・デューイ（松野安男訳）、『民主主義と教育（上）』、岩波文庫、1975
10. ジョン・デューイ（松野安男訳）、『民主主義と教育（下）』、岩波文庫、1975
11. 張亜寧、「中国の義務教育『美術課程標準(2011年版)』翻訳」『京都市立芸術大学美術学部研究紀要』、(58)、京都市立芸術大学美術学部、2014、pp. 61—73
12. 濱口由美、三屋ミキ、津嶋美穂、中村夏樹、吉村遼、「鑑賞学習教材としてのアートカードの意義と可能性」『福井大学教育実践研究』、(36)、福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター、2012、pp. 43—54
13. 林信弘、『エミールを読む:ルソー教育思想入門』、株式会社法律文化社、1987
14. 深澤悠里亜、「アートカードを使用した鑑賞法の研究—アートカードの分析と使用法の考察—」『美術教育学研究』、(49(1))、大学美術教育学会、2017、pp. 337—344
15. 三井一希、佐藤和紀、萩原丈博、竹内慎一、堀田龍也、「STEAM 教育の視点を取り入れた小学校図画工作科におけるプログラミング教育の授業開発と実践」『日本デジ

タル教科書学会発表予稿集』、8(0)、日本デジタル教科書学会、2019、pp. 9—10

16. 横溝紳一郎、『日本語教師のためのアクション・リサーチ』、株式会社凡人社、2000
17. 横山隆光、松井徹、鈴木里香、南風盛知佳、「小学校図画工作でのプログラミング教育の一試行」『岐阜女子大学紀要』、(49)、岐阜女子大学、2020、pp. 1—8
18. ヨハン・フリードリヒ・ヘルバルト（是常正美訳）、『教育学講義綱要』、協同出版株式会社、1974

#### <英文>

1. David Nunan, 1992, *Research Methods in Language Learning*, Cambridge University Press, pp. 16—17
2. David Nunan, 1993, “Action Research in Language Education”, Julian Edge and Keith Richards (Eds.), *Teachers develop, teachers research : papers on classroom research and teacher development*, Heinemann, pp. 39—43
3. Edmund Burke Feldman, 1970, *Becoming Human through Art: aesthetic experience in the school*, Prentice-Hall
4. Jenny Louise Hallam, Des Hewitt, Sarah Buxton, 2014, “An Exploration of Children's Experiences of Art in the Classroom”, *International Journal of Art & Design Education*, (v33 n2) , pp. 195—207
5. John Dewey, 2003, “The Method of the Recitation. How Shall the Transition Be Made from the Practical to the Intellectual Attitude in Learning? ”, Larry Hickman(Ed.), *The Collected Works of John Dewey, 1882—1953, 2nd Release, Supplementary Volume 1: 1884—1951*, Charlottesville, Virginia, USA: InteLex Corporation, pp. 67—107
6. Michael Ray Irwin, 2018, “Arts Shoved Aside: Changing Art Practices in Primary Schools since the Introduction of National Standards” , *International Journal of Art & Design Education*, (v37 n1) , pp. 8—28
7. Nuray Mamur, Vedat Özsoy, İbrahim Karagöz, 2020, “Digital Learning Experience in Museums: Cultural Readings in a Virtual Environment”, *International Journal of Contemporary Educational Research*, (v7 n2) , pp. 335—350
8. Siobhán Dowling Long, 2015, “The Arts in and out of School: Educational Policy, Provision and Practice in Ireland Today”, *International Electronic Journal of*



*Elementary Education*, (v8 n2) , pp. 267—286

9. Stephen Kemmis, Robin McTaggart, R, 1988, *The action research planner*, Deakin University Press, pp. 9—15

#### <中国文>

1. 巴特尔、「赤峰市喀喇沁旗基础美术教育现状的调查与思考」、内蒙古师范大学修士論文、2013
2. 陈伟伟、「小学生美术学习兴趣调查研究」、贵州师范大学修士論文、2018
3. 遲裕琦、「以绘本为载体、优化小学美术教学」、辽宁师范大学修士論文、2020
4. 董浩广、「泥塑在小学美术教学中的运用研究—以石家庄市西兆通小学为例」、华中师范大学修士論文、2017
5. 崔萌、「小学生美术的需要与兴趣探究」、广西师范大学修士論文、2016
6. 杜威 (熊哲宏、张永、蒋柯訳)、『杜威全集·早期著作 (1882—1898) 第二卷 (1887)』、华东师范大学出版社、2010
7. 杜威 (王路、马明辉、周小华等訳)、『杜威全集·中期著作 (1899—1924) 第六卷 (1910—1911)』、华东师范大学出版社、2012
8. 杜威 (刘娟訳)、『杜威全集·中期著作 (1899—1924) 第七卷 (1912—1914)』、华东师范大学出版社、2012
9. 杜威 (何克勇訳)、『杜威全集·中期著作 (1899—1924) 第八卷 (1915)』、华东师范大学出版社、2012
10. 杜威 (俞吾金、孔慧訳)、『杜威全集·中期著作 (1899—1924) 第九卷 (1916)』、华东师范大学出版社、2012
11. 郭戈、「兴趣教育思想发展的“三部曲”—卢梭、赫尔巴特和杜威的兴趣说」『当代教育与文化』、3(04)、西北师范大学、2011、p.38—45
12. 赫尔巴特 (李其龙訳)、『普通教育学』、人民教育出版社、2015
13. 中华人民共和国教育部、『义务教育美术课程标准(2011 年版)』、北京师范大学出版社、2012